

会 議 録

会 議 名	令和6年度目黒区放課後子ども総合プラン運営委員会
日 時	令和6年10月29日（火）午後6時30分～午後7時35分
場 所	目黒区総合庁舎2階 大会議室
出 席 者	<p>【委員】</p> <p>田中委員長（子育て支援部長）、樫本副委員長（教育次長）、大竹委員、瀬沼委員、守屋委員、赤木委員、金井委員、加藤委員、田丸委員、石嶺委員、中川委員</p> <p>【事務局】</p> <p>子育て支援部放課後子ども対策課長、教育委員会事務局生涯学習課長</p>
傍 聴 者	なし
配 布 資 料	<p>次第</p> <p>座席表</p> <p>資料1 目黒区放課後子ども総合プラン運営委員会委員名簿</p> <p>資料2 目黒区放課後子ども総合プラン運営委員会設置要綱</p> <p>資料3 会議の公開等の取扱いについて（案）</p> <p>資料4 区における放課後子ども総合プランの概要</p> <p>資料5 令和6年度小学校内学童保育クラブの入所状況</p> <p>資料6 令和5年度ランランひろばの実施結果について</p> <p>資料7 令和5年度子ども教室の実施結果について</p> <p>資料8 令和6年度放課後子ども総合プラン運営協議会の開催結果について</p> <p>資料9 令和6年度放課後フリークラブ（子ども教室）推進会議（第1回）の開催結果について</p> <p>資料10 ランランひろばのサービス拡大について</p> <p>ランランひろばチラシ</p> <p>放課後の子どもの居場所案内リーフレット</p>
会 議 次 第	<p>1 開会</p> <p>2 委員紹介</p> <p>3 議題</p> <p>（1）会議の運営について</p> <p>（2）区における放課後子ども総合プランの概要について</p> <p>（3）令和6年度小学校内学童保育クラブの入所状況について</p> <p>（4）令和5年度ランランひろばの実施結果について</p> <p>（5）令和5年度子ども教室の実施結果について</p> <p>（6）令和6年度放課後子ども総合プラン運営協議会の開催結果について</p> <p>（7）令和6年度放課後フリークラブ（子ども教室）推進会議（第1回）の開催結果について</p> <p>（8）ランランひろばのサービス拡大について</p>

	<p>4 その他</p> <p>5 閉会</p>
<p>会議の結果 及び 主な発言</p>	<p>1 開会</p> <p>2 委員紹介</p> <p>3 議題</p> <p>(1) 会議の運営について 資料3により委員長から、会議の運営や公開等の取扱いについて説明した。委員から異議はなく、案のとおり決定した。</p> <p>(2) 区における放課後子ども総合プランの概要について 資料4により事務局（放課後子ども対策課長）から、区における放課後子ども総合プランの概要について説明した。</p> <p>(3) 令和6年度小学校内学童保育クラブの入所状況について 資料5により事務局（放課後子ども対策課長）から、令和6年度小学校内学童保育クラブの入所状況について説明した。</p> <p>(4) 令和5年度ランランひろばの実施結果について 資料6により事務局（放課後子ども対策課長）から、令和5年度ランランひろばの実施結果について説明した。</p> <p>(5) 令和5年度子ども教室の実施結果について 資料7により事務局（生涯学習課長）から、令和5年度子ども教室の実施結果について説明した。</p> <p>(委員) 「(2) 区における放課後子ども総合プランの概要」で説明があった、コーディネーターとは誰か。 (事務局) 元児童館長である区の職員で、ランランひろばを運営するにあたり、地域の方や小学校との調整等を図っている。</p> <p>(委員) ランランひろばの一日あたり利用率の合計が15%ということだが、区として目指していく利用率というのはどの程度を考えているのか。 (事務局) ランランひろばは放課後の居場所の一つであり、利用率100%を目指しているものではない。一方で登録率については、登録していないので利用できないという事態は避けたいと考えている。「安心でんしょぼと」という連絡ツールやランランひろば便りなどで周知しているところである。</p>

(委員) 利用率を上げるというより、居場所をつくっていくということが趣旨であるということか。

(事務局) そうである。

(委員) 学童保育クラブの待機児童が発生しているが、この待機児童の子どもたちにはどのようなフォローアップをしており、現状はどうなっているのか。また、ランランひろばの実施場所について、どれぐらいタイムシェアで使わなければいけない状況にあるのか。

(事務局) 待機児童のフォローアップというところについては、ランランひろばやランドセル来館などで一定のフォローアップはできていると考えている。さらにそういった受け皿になるようにランランひろばのサービスを拡充し、子どもの居場所が無いということがないように、フォローアップは今後も進めていく。タイムシェアについてであるが、ランランひろばは校庭と体育館、特別教室についてはタイムシェアで使わせていただいている。学童保育クラブについては、一部の学校では専用室もあるが、タイムシェアのところも多いというのが現状である。

(委員長) 令和5年度の子ども教室の実施結果で、前年度と比べ、回数が減っている一方、利用人数が大幅に増えている教室があるが、何か理由はあるのか。

(事務局) 令和4年度は実施計画回数が128回予定していたのに対して、実際には8回しか実施できなかったということで、参加人数としては143人と少なくなっている。令和5年度については112回の計画に対して86回実施し、実際の実施回数としては10倍になっており、それに伴い、実際の利用者数も143人から905人に増えた。

(委員長) 一回あたりの人数が増えたということではないということか。

(事務局) そのとおりである。

(委員) ランランひろばの実施結果だが、登録率が一番低い学校が48%で、一番高い学校は93%となっているが、どういうことが原因なのか。

(事務局) 小学校の周りに公園が多いところは、比較的登録率が低くなるという傾向である。登録率が高い学校は、学校の協力もあり、周知に大変ご協力いただいているということもあって、登録率が高いという現状である。

(6) 令和6年度放課後子ども総合プラン運営協議会の開催結果について
資料8により事務局(放課後子ども対策課長)から、放課後子ども総合プラン運営協議会の開催結果について説明した。委員からの質問、意見はなかった。

(7) 令和6年度放課後フリークラブ(子ども教室)推進会議(第1回)の開催結果について

資料9により事務局（生涯学習課長）から、令和6年度放課後フリークラブ（子ども教室）推進会議（第1回）の開催結果について説明した。

（委員長）主な意見等の中で、下校時刻のパターンが増え、教室の開始時刻や児童の待機場所をどうするかという問題について書かれているが、先ほどの説明の中で、ランランひろばの利用ができない要因として待機する場所がないという意見があったと思う。そのあたりの意見というのは結構あるのか。

（事務局）学校によると思うが、ある学校では今年度から下校時刻のパターンが増えたということで、その対応に苦慮しているという話は聞いている。どのタイミングで教室を始めるのか、また待機場所をどうするのかということが新たに課題となってきたという情報をいただいている。

（委員長）その点に関して、校長先生の方から何かあれば、お話いただきたいと思う。

（委員）正直、校内に待機場所というのは無いと思う。学校としても放課後の居場所を確保したいと思うが、その一方で授業時数のことだったり、職員の働き方改革というようなことを加味していくと、なかなか難しい。本校も教室は全部使用している状況である。

（委員）待機場所は、本校も他の学校も無くて困っている、という話は聞いている。提供できる場所が無いので、頭を悩ませているところである。

（委員長）そういったところも含めて、どうしたらいいかということをお我々も考えていかなければいけないし、教育委員会と区長部局が連携して取り組む必要があることから、急に解決できるという問題ではないと思うが、今後、そういった課題も含めて検討していければいいと考えているので、よろしく願います。

（8）ランランひろばのサービス拡大について

資料10により事務局（放課後子ども対策課長）から、ランランひろばのサービス拡大について説明した。

（委員）新1年生の利用を4月1日から始める場合、どう周知するのか。これまで学校から周知していたかと思う。

（事務局）2月に新1年生の保護者会があるので、そこに放課後子ども対策課職員が出席させていただき、事業内容の説明や、受付ブースを設けて登録をお願いしたいと考えている。今後、学校にご相談しながら周知を進めていきたいと考えている。

（委員長）その内容については、全学校に説明済ということでよいか。

（事務局）今回のサービス拡大の内容説明とあわせて、新1年生への周知についてご相談させていただいている。

(委員) 学童保育クラブとランランひろばの境があまり無くなってきて、保護者としては選択の基準が分かりづらくなってきているなという気がしている。通常は、学童保育クラブを最初に申し込んで、入れなかったらランランひろばで、という流れになっていると思うが、実質、その違いは何なのかというのがわからないなというのが正直な感想である。その辺を教えてください。

(事務局) おっしゃるとおり、ランランひろばのサービスが学童クラブに近づいているというところがあるので、その違いというのが、だんだん無くなってきているというのが現状である。本日お配りしたランランひろばのチラシであるが、これは、保護者の方が一見して比較して検討していただけるように、ランランひろば、ランドセル来館、学童保育クラブのサービス内容をまとめたものである。今後も、動画を作成し、ランランひろばとランドセル来館についてどのような場所か、一見してわかるよう準備を進めており、各家庭の事情にあわせて、より良い事業を選択していただけるような形にしていきたいと考えている。現在、待機児童が課題であるというお話をさせていただいたが、その一因として、学童保育クラブを利用しなくてもランランひろばで過ごせる児童が学童を利用していることがある。本当に学童保育クラブが必要な、例えば夜の7時まで利用する児童や、あとは障害のある児童が学童に入れて、ランランひろばで過ごせる児童はランランひろばで過ごしていただくという考えが基本的にある。また、先ほどの違いというところについてであるが、学童保育クラブには午後7時までの延長保育やおやつを提供があり、ランランひろばには無いということがある。

(委員) 学童保育クラブを、土曜日、日曜日、祝日も実施していくということは考えていないのか。

(事務局) 土曜日はランランひろばは実施していないが、学童保育クラブは実施している。日曜日は、ランランひろば、学童保育クラブとも実施していないので、児童館のご利用になると思っている。どこにも居場所が無いということは避けたいと思っているので、色々な場所を提供しながらと考えており、今後もそういった方のニーズに応えられるようこたえるような検討は進めていきたい。

(委員) 入退室管理システムというのは、登録されている人数のカードがあって、その中から自分のカードを持って行って、カードリーダーに通すのか。

(事務局) 運用方法は検討中であるが、児童全員を対象とするのは難しいと考えており、ある程度絞ることは考えざるを得ないのかなと思っている。受付で子どもが滞留してしまうことは避けたいので、学年ごとにして、50音順に並べるとか、そういった工夫はしたいと考えている。

(委員) 急な雨で教室が借りられなくて、児童が帰宅することになるということは、今もあるのか。

(事務局) あるというのが実情である。学校の中に場所を確保していただけたところもあれば、昇降口などで待機する、あるいは、一帰宅となる場合もある。ただ、今後も、学校にもご協力をいただきながら、一時帰宅や中止がないように取り組みを進めていく。最近、運用を変更した点で、急な中止の時には、カギを持っていなくて帰れないという児童もいるので、ランランひろばの職員が引率し、児童館で過ごすというような運用もしている。

(委員) 先ほど、保護者としては、ランランひろばと学童保育クラブは同じではないかという気持ちだという話があった。今回は子どもの居場所を広げる、例えば、学童保育クラブが合わないという子どもにとっては、ランランひろばを使うということで、子どもたちにとって居場所が複数あるということは、すごく重要なことだと思う。さらに言うと、学童保育クラブは国の事業でもあって、ただ子どもの安全安心だけではなく、そこで子どもたちにしっかりと生活のペースも提供していくというような意味合いもある。あと、学童保育クラブには運営指針というものが国から示されており、職員は研修を受けて、支援員という資格を取得して運営に関わるというようなところでいくと、学童保育クラブとランランひろばの趣旨は違うんだということを、区の方も周知徹底をしていただくということが必要ではないか。だから学童保育クラブには入所基準もある。そういったところも改めてお伝えしておきたい。

(委員長) もともと学童保育クラブは国の事業であって、児童福祉法に基づいて、保育が必要な方へのサービス、事業ということで進めてきたところである。ただ、先ほど事務局から説明したとおり、保育が必要な子だけではなく、全ての子どもの居場所をつくっていこうということである。これまでは学童保育クラブしかなかったもので、どうしてもそれ以外の、保育が必要ない子どもたちがどこに遊びに行くのかということが考えてこられなかったのが、国の方で全児童対策ということで、放課後の居場所づくりということを踏まえて進めてきているということである。区もそれによって考えていかなければならないので、そうすると、学童保育クラブとの境がなくなって、そういったところがわかりづらくなっているのかなと思う。もう一点、学童保育クラブは保育が必要な子の場所だが、最初は学童保育クラブに入れておけばいいという保護者もおおり、そういったことにより、本来必要な児童が入れなくなっているということは実情としてあるので、そういったことも含めて、区としてはきちんと説明して、全ての児童が居られる場所、それとともに、必要な所に居られるということをしっかりと考えていかなければならないと思う。引き続き、区としてはしっかり

説明してご理解いただきながら、子どもたちが行きたい場所に行けるようにしていきたいと思う。

(委員) やはり学童保育クラブの方は広げていくということは考えていないということか。学童保育クラブの方が増えていくんじゃないかと期待している保護者はすごく多いと思う。ランランひろばを広げていくことは保護者はあまり知らないと思うが、学童に入りにくいという話は出ている。うまく周知ができないのかというのものもあるし、小学校ごとに事情は違うと思うので、足りていない所は増やして足りている所は減らしていくとか、そういったことはないのか。

(委員長) 貴重なご意見ありがとうございます。それを踏まえての放課後子ども総合プラン、放課後の居場所の運営なので、それを進めていきたいと思う。

4 その他

5 閉会

以 上